

令和4年度 入学式 式辞

校庭の木々の緑も色鮮やかになり、春の息吹を感じる本日、PTA副会長 中村千尋様 大野恭子様のご臨席を賜り、また保護者の皆様のご出席のもと、創立100周年を越えて102年目を迎える令和4年度の入学式を挙げていただけますことは、本校にとってこの上ない慶びであり、心より御礼申し上げます。

ただ今、本校の入学を許可いたしました278名の新入生の皆さん、入学、誠におめでとうございます。教職員、在校生を代表いたしまして、皆さんの入学を心より歓迎いたします。

今、皆さんの胸中は、楽しかった中学校生活の思い出とともに、これから始まる高校生活への期待と不安でいっぱいであろうと思います。皆さんには、伝統ある本校を選んだ責任と合格したという誇り、深谷商業高校生としての自覚をもち、将来の夢や目標に向かって邁進する姿を、見せてもらうことを大いに期待しております。

さて、本校は、大正10年に町立深谷商業学校として創立され、県内の商業高校としては最も古い歴史と伝統を誇っています。大正12年に県立に移管されてから昭和14年までは、埼玉県立商業学校「埼商」と呼ばれ、バッジにある一本の白線は「一商」、埼玉県で第一番目の商業高校であることを示しています。

また、大正12年には、この深谷市出身の近代日本資本主義の父と言われた渋沢栄一翁が来校され、「至誠（しせい）」「士魂商才（しこんしょうさい）」という毛筆の書をいただき、以来これが本校の校訓となっています。「至誠」とは、まごころを意味し、誠実な心をもって、様々な事にあたりなさいということです。「士魂商才（しこんしょうさい）」とは、義を重んずる武士の魂と、高い志をもった商人の才能をもちなさいということです。本校はこの校訓のもとに、数多くの有為な人材を輩出してまいりました。卒業生は26,000人を超え、諸先輩方は厳しい時代の流れを乗り越えて素晴らしい校風を作り上げてくれました。大正、昭和、平成、そして令和と4つの年代に脈々と続く深谷商業高校で、皆さんは「令和」の時代の生徒として、本校の一層の発展と新たな歴史を作り上げていくのだという気持ちで、それぞれの夢の実現に向けて力を注いで欲しいと思います。

そこで、本日は、皆さんの大切な高校生活のスタートにあたり、高校生活をどのように過ごして欲しいか、私なりの考えを2つお話しいたします。

1つ目は、「自らの可能性に挑戦する」ということです。

挑戦すること自体が、人を成長させます。仲間とともに挑戦することで友情は本物になります。仮に失敗しても、失敗から学べばよいのです。失敗の痛みから立ち上がる経験は皆さんに本物の強さと自信を与え、再挑戦することで更なる可能性を限りなく伸ばすはずで、恐れず、そしてこの位でいいと妥協せず、果敢に挑戦して欲しいと思います。

皆さんもご存じかと思いますが、深谷市出身の北京パラリンピック金メダリストの村岡桃佳選手は、昨年、東京2020パラリンピック陸上100Mに出場し、6位入賞を果たしました。大会後のインタビューで、次のようなことを話していました。「苦しかったし、大変なこともすごくたくさんあったし、悩んだりしたこともあったけど、陸上競技でパラリンピックに出たいという夢と、挑戦を始めてから東京大会を目指したいという目標を見つけて、今はそれを達成することができたので、後悔は全くない。予選でゴールした時の景色と、決勝でゴールした時の景色は全然違っていった」目標を立て、努力を重ね、決勝に出場したファイナリストだけが見ることのできる特別な景色だったのだと思います。そして、この時の経験が、北京パラリンピックでの金3つ銀1つのメダルの獲得に繋がったのだと思います。

皆さんは、一人ひとり優れた才能があり、鍛えれば大いに伸びる可能性を秘めています。今に満足せず、自分の良さを発見し、可能性を広げる挑戦を続けてください。これからの決意と努力によって、自らの将来をいかようにも変えることができ、秘めた可能性を開花させるこれからの3年間、失敗を恐れず、自らの可能性に挑戦し続け、数多くある道の中から「この道は自分が選んで、歩きだした道です」と胸張って言える自分の道を見出してください。

2つ目は、「豊かな人間関係を築く」ということです。

個人としてできることには限りがあります。もちろん全ての活動は最終的に個々の意志や姿勢に帰結しますが、その過程では様々な工夫が可能です。クラスや学年の生徒に加え、先輩、先生方や地域の方々など、これまで以上に多くの人々、そして多様な個性や価値観を持った人々と関わるようになります。日々のクラスでの活動、体育祭や文化祭といった行事、部活動、生徒会活動、地域との交流など、様々な活動の場や学習の機会があります。とりわけ協働的な取組は、新たな気付きや思考の深まりを促し、成長の契機となることも多いものです。話し合いや学び合い、支え合いや分かち合い、認め合いや高め合いを、様々な場面で重ねて欲しいと思います。

また、皆さんはクラスや学年、部活動、そして深谷商業高校という集団の一員として、そして、広く社会の一員として、ルールやマナーを守らなければなりません。他者を理解し、相手の人格を尊重し、協力し合い、ルールやマナーを守ることを通して、豊かな人間関係を築いてください。

皆さんのこれからの三年間は、決して平坦な道ばかりではないと思います。時には悩み、自信をなくし、希望や目標を見失うことがあるかもしれません。しかし、このような時、皆さんには、「最後まであきらめない、強い心を持って乗り越えて欲しい」と思います。「一人で頑張れ」、ということでは決してありません。優しく頼もしい先輩が、また、情熱と愛情に満ちた先生が、そして何より、奇跡的な確率で、今日、同じ深谷商業高校に入学した仲間がいます。もし、困難に出会った時には、「力」を合わせ、「心」を合わせ、「協同」して乗り越えて欲しいと思います。これから10年後、20年後、大人になって社会に出て成長した時に、ちょっと昔を振り返ってみて、今の自分の原点は深谷商業高校で過ごした3年間であり、まさにその3年間が自分の人生の醍醐味であったと言えるような、夢と目標のある熱い高校生活を送ってくれることを期待しています。

保護者の皆様、お子様の御入学、誠におめでとうございます。高校の3年間は、人生の方向性を決定する大事な時期であり、悩み多き時期でもあります。私たち教職員は、お子様が、自ら生きる道を自分で切り開いていけるよう、全力を尽くして指導して参りますが、子供たちの健全な成長を図るには、学校と家庭とが、それぞれの役割を果たしながら、連携を密にすることが重要となります。どうか、本校の教育に御理解と御支援を、よろしくお願い申し上げます。

結びに、新入生の皆さんの高校生活が、より楽しく、有意義なものとなりますよう祈念して、式辞といたします。

令和4年4月8日

埼玉県立深谷商業高等学校 校長 西木 成男